

売れる国産大豆

～国産大豆が求められている～



株式会社 日清商会

2022年2月18日（金）



「日清オイリオグループ」の グループ企業

穀物・食品・食品原材料の専門商社です

1949年に創業し、創立72年を迎えました

世界の大豆の現況 ①

- 世界の大豆生産量は約3.7億トン
ブラジル・米国・アルゼンチン・カナダの生産で全体の約 8 割を占めている。
- 遺伝子組み換え大豆は主要な米国で約95%。米国以外でも遺伝子組み換え大豆の作付けが進んでいます。
- 世界の大豆の反収は品種改良・栽培技術の向上により増加しており、米国・ブラジルでは300kg/10a 以上の高反収となっている。
- 日本が求める食品用のNON-GMO（非遺伝子組み換え）大豆のプレミアムが高騰。
- 20年産はコロナ禍の影響や中国の輸入量の増加（爆買い）により、コンテナ不足による遅延やフレート（海上運賃）の上昇など、原料コストが大幅に上昇。

世界の大豆の現況 ②

●近年シェアを広げている Plant Based Meat 現在Plant Based Meatの世界市場は 1 兆円を超えるといわれております。世界では大手商社・メーカーが専用工場を作り日本国内でも様々な業界が参入してきています。今後増え続ける世界人口は100億を超え食肉の生産が追い付かなくなると言われており、肉の蛋白源に変わるものとして植物性蛋白が注目されています。弊社でもPlant Based Meatとして、動物性原料を一切使用しない Vegan認証を受けた、「**Vegan Meat**」を取り扱っております。



大豆の国内需要の概要

大豆は、米・麦類とともに日本人の食生活に欠かすことのできない重要な食料資源です。近年の国内需要は年間約350万トン、国内生産量は20～25万トンで、**自給率は7%**程度で推移しています。大豆の国内需要の約7割は搾油（大豆油）用で、その原料はほぼ全量が米国、カナダ等からの輸入で賄われています。尚、搾油後の大豆ミールは、主に家畜の飼料として利用されております。一方で国内需要の約3割（90～100万トン）は食品用として、豆腐・油揚げ・納豆・煮豆・惣菜・味噌・醤油・豆乳・きな粉・豆菓子等に使用されます。その中でも国産大豆は食味を始めとする品質の良さや、国産原料に対する安心感から、ほぼ全量が食品用に仕向けられており、食品用に限った場合の**自給率は20%前後**となります。

国産大豆と輸入大豆の比較

	国産大豆	輸入大豆				
価格	×	○	2020年産 国産大豆は輸入大豆の約2.5倍			
外観	○	×	大粒で整粒が多い。			
生産量	×	○	実需者が安心して産地を選べるか？			
安心・安全	○	×	検査等級あり。遺伝子組み換え消費者のイメージ			
信用	○	×	産地の顔が見える。詳細な打合せ・確認が維持できる			
契約栽培	○	×				
差別化	○	×	「国産大豆使用」による商品の差別化			
保管	○	×	国内JA・指定倉庫での保管可能			
流通	○	×	国内流通の為、予定が立てやすい			

用途別大豆使用量と国産大豆の比率

用途	原料使用量(t)	シェア	国産使用量(t)	比率
豆腐・油揚げ	500,000	48%	120,000	24%
煮豆	35,000	3%	23,000	66%
納豆	150,000	14%	41,000	27%
味噌	140,000	13%	14,000	10%
醤油	150,000	14%	5,000	3%
豆乳	70,000	7%	7,000	10%
その他	5,000	0%	50	1%
合計	1,050,000		210,050	20%

国産大豆に求められるもの

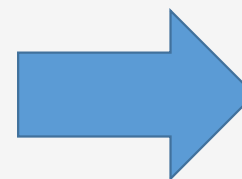
- ① 生産量・価格の安定性と品質の均一化
- ② 用途に合った品質

用途	求められる条件				
豆腐	蛋白含有量が高い・高シヨ糖				
油揚げ	蛋白含有量が高い				
豆乳	高シヨ糖				
煮豆	外観品質（皮切れ・しわ粒・紫斑・褐斑等がない）・高シヨ糖				
納豆	外観品質（皮切れ・しわ粒・紫斑・褐斑等がない）				
味噌	高シヨ糖				
醤油	蛋白含有量が高い				

売れる国産大豆

【国産大豆が必要とされる大きな要因は】

- 産地の顔が見える事。
- 輸送途中の品質劣化等がない。
- 全国統一検査基準で、品質（外観）ブレが少ない。
- 消費者の国産原料に対するイメージ・安心感。



**差別化
商品**

差別化できる国産大豆が今求められています。また、これまでの「国産大豆使用」表示からより産地を固定した詳細な表示が求められており、他県・他産地でない独自のカラーを出せる大豆が求められます。



ご清聴ありがとうございました。

引き続き、産地と実需者を繋ぐ求められる企業となるよう努めてまいります。

求められる国産大豆の生産拡大に期待いたします。